

恵迪寮同窓会

道北・旭川恵迪会 会報

VOL. 19
2025 年 7 月 9 日発行
発行：道北・旭川恵迪会 事務局

2025 年 7 月 5 日（土）午後 6 時より、旭川トーヨーホテルにおいて第 19 回道北・旭川恵迪会寮歌祭が開催されました。今年も北大・小樽商大応援団対面式（7 月 6 日 小樽開催）と重なってしまいましたが、恵迪寮同窓会から千川浩治副会長と大谷文昭常任幹事がご来賓としてご出席いただき、総勢 12 名での盛宴となりました。

寮歌祭は、請川尊史幹事（昭和 51 年）の司会のもと、ご来賓代表として千川副会長（昭和 40 年・応援団）からご挨拶をいただいた後、出席者の中で最年長の五味洵稔氏（昭和 41 年）による乾杯で始まりました。各参加者の会話と食事ではばし盛り上がった後、各参加者の発声により寮歌を皆で高唱しました。寮歌の演目・発声者は以下の通り。

- 1 蒼空高く翔らむと（昭和 2 年）－ 宜寿次盛生氏（昭和 60 年・応援団）
- 2 魔神の呪い（大正 6 年）－ 伊東誠氏（昭和 57 年）－今回、初参加
- 3 津軽の滄海の（昭和 13 年）－ 皆川吉郎幹事（昭和 43 年）
- 4 瓔珞みがく（大正 9 年桜星会歌）－ 五味洵稔氏（昭和 41 年）
- 5 永遠の幸（札幌農学校校歌）－ 村上昭男幹事（昭和 43 年）
- 6 タンネの氷柱（昭和 8 年）－ 渡辺誠二幹事（昭和 58 年）
- 7 一帯ゆるき（明治 40 年）－ 宮崎譲幹事（昭和 48 年）
- 8 花繚乱の（昭和 32 年）－ 森満範幹事（昭和 57 年・応援団）
- 9 水産放浪歌－ 大谷文昭氏（昭和 43 年・応援団）
- 10 春雨に濡る（大正 12 年）－ 山本牧氏（昭和 49 年）
- 11 都ぞ弥生（明治 45 年）－ 請川尊史幹事（昭和 51 年）

エール：森満範幹事（昭和 57 年・応援団）

それぞれの寮歌の合間に、千川氏や大谷氏から寮歌にまつわるエピソードをお話し頂き、諸説はあるものの参加者同士の考えを語り合う姿に学生だった頃の情景が蘇り、胸が熱くなった次第です。OB だけの議論なので答えが出るようなものではないのかもしれませんが、作者の想いを尊重しつつ、現役生が歌いやすいように変わっていても良いのではないかとの意見に落ち着いたと思います。ご参考として、各寮歌で出された話題の一部は以下の通りです（あくまで参加者内での会話ですので、批判・異論はご容赦ください）。

○都ぞ弥生（明治 45 年）

- ・「花の香」とは桜のことか（桜はあまり香りがしないが・・・）？
- ・「羊群声なく」牧舎に帰る、って本当？

○永遠の幸（札幌農学校校歌）

- ・アメリカ南北戦争時の北軍行進歌が元歌であり、歌うテンポも早いほうが良い。
（原曲が同じである同志社大学の応援歌「若草萌えて」はテンポが良い）

○春雨に濡る（大正 12 年）

- ・春雨に「ぬるる」であったが、現在は「ぬる」
- ・「王者の誇」の王者とは？

○タンネの氷柱（昭和 8 年）

・「無絃琴（つるなしごと）」とは？

○津軽の滄海の（昭和 13 年）

・「牧場添ひの野路」の「野路（のじ）」の読みが、現在は「みち」となっている

○時潮の波の（昭和 21 年）

・旅の朝早くは「明けぬ」か「明けね」か

○花繚乱の（昭和 32 年）

・「森に桂の火は燃えぬ」とは？

○水産放浪歌

・前口上にある「～一夜の快樂を～」の「快樂」は「かいらく」か「けらく」か

・蒙古放浪歌との違い

このように、寮歌と議論（会話）を織り交ぜながら会は進行したため時間が足りないぐらいでしたが、充実した宴となりました。

また、今回も宮崎幹事作の「都ぞ弥生」の 1～5 番の歌詞の情景を描いた絵画を持参いただき、宴に華を添えていただきました。

次回は、来年 2026 年 7 月 4 日（土）にトーヨーホテルで開催予定ですので、多くの方のご参加をお待ちしております。（文責：昭和 57 年入学・応援団 森 満範）

